

Pink Ribbon plus 2017

高濃度乳腺（デンスプレスト）という言葉を知ったことはありますか？ 乳房の中の乳腺組織が濃度が高い状態のことを言いますが、日本人女性の約半数がこのデンスプレストだそうです。デンスプレストのリスクや注意点について、くまもと森都総合病院副院長の西村令喜先生に詳しく聞きました。

今回のテーマ
乳がん

乳がんのリスクのひとつ デンスプレスト 高濃度乳腺とは？

pink
ribbon
2017

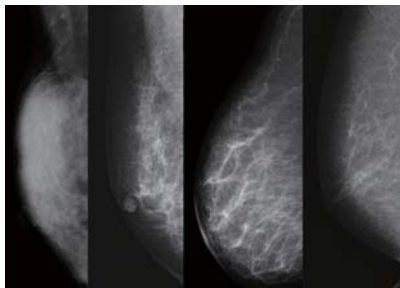
Q 高濃度乳腺（デンスプレスト）とは？

A 乳房は、乳汁をつくり分泌する「乳腺組織」と、これを支える「脂肪組織」で構成されています。この乳腺の濃度（バランス）には個人差があり、年齢や体質、授乳の有無、ホルモン環境などに左右されます。一般的に、多く授乳した乳腺は脂肪に置き換わっていきます。一方、閉経後にホルモン補充療法をしている人は、高濃度乳腺になりやすい傾向があります。日本人は欧米人に比べて高濃度乳腺の割合が高く、日本人女性の半数以上、50歳以下では80%近くが高濃度乳腺であるという報告もあります。

Q 高濃度乳腺の場合の注意点はありますか？

A マンモグラフィ撮影では、脂肪が多いほど全体的に黒く写ります（左写真）。がんを見つけると、高濃度乳腺だと全体が白く写ります（右写真）。がんを見つける上で重要なしこりなどの変化は、白く写ることがほとんどです。高濃度乳腺の場合、これらの変化が見つけにくくなる可能性があります。また、高濃度乳腺は中程度の乳がんリスク因子の一つでもあることを知っておいていただきたいですね。ただし病気が異常ではなく、あくまでも一つの所見ですので、過度に心配する必要はありません。

マンモグラフィ撮影による乳腺の濃度の違い



高濃度 不均一濃度 散在性 脂肪性

配するのではなく、早期発見のために自己触診や定期的な検診を継続することが大切です。



くまもと森都総合病院
副院長
西村 令喜 医師

Q 高濃度乳腺だと、マンモグラフィより超音波検査のほうが適しているのですか？

A マンモグラフィは、超音波検査では見つけにくい石灰化などの病変を見つけてくれる上で大変有効な検査です。特に、早期の乳がんは石灰化で見つかる場合も多いです。高濃度乳腺の場合は、マンモグラフィに超音波検査を併用することで、検査精度を高めることができます。超音波検査による乳がんの早期発見の割合は向上していることが報告されていますが、死亡率減少までには至っていません。現状です。超音波検査のみを受けることで、多くの追加検査が行われることこの不利益も理解する必要があります。

Q 自分が高濃度乳腺かどうかを知るにはどうしたらいいのですか？

A 受診者には知る権利がありますので、人間ドックや会社の検診などであれば、自分が高濃度乳腺かどうかを尋ねることはできると思います。ただし市町村などが行う対策型検診の場合、高濃度乳腺かどうかを確認することは、現状では難しいと考えられます。また先ほど紹介したように、高濃度乳腺は異常や病気ではありませんので、それを確認するために病院を受診するということが現状ではお勧めできません。自己触診や定期的な検診を継続することが大切です。